

# 服のチカラ

世界を良い方向に変えていく



11

ユニクロが届けたい服

MADE FOR ALL



世界を良い方向に変えていく

## 服のチカラ

# 11

## CONTENTS

- 04 服づくりの現場レポート  
ユニクロの服ができるまで
- 08 世界に広がるユニクロの服づくり  
ゆったりと、堂々と ～インドネシア～  
文・小林一紀
- 10 ユニクロと工場が取り組んでいること
- 14 世界の友人の幸福を感じるユニクロへ  
文・藤井敏彦
- 15 本当に良い服を一緒につくるための  
取引先工場との取組み

## ユニクロが届けたい服

### MADE FOR ALL ～私たちが考える本当に良い服～

世界中の人々に本当に良い服を届けたい。

私たちが目指す「本当に良い服」とは、見た目のデザインや品質、機能性が優れているだけではありません。手軽に求められる価格というだけでもありません。本当に良い素材、本当に良い商品を開発し、原料、素材から最終商品までのすべての製造プロセスを直接管理し、お客様へお届けすること。その一連のプロセスが持続性を保ち、さらに改善され、進化していく仕組みこそが、私たちの目指す「本当に良い服づくり」です。

そして、それを支えてくれるのが、私たちと一緒に取り組んでともに成長し合うことを目指している、約70社の取引先工場です。ここで年間約6億着ものユニクロの服がつくられています。

ですから、安心して安全な労働環境でつくられ、環境への配慮も考えた服づくりであることが重要です。また取引先工場との強固なパートナーシップや、高品質を実現するための高度な技術と設備、効率的な生産体制なども不可欠です。これらが連動し合うことで初めてユニクロが目指す服づくりが実現し、世界中のあらゆる人々にとって「本当に良い服」が生まれるのです。

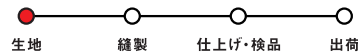


# 服づくりの現場レポート

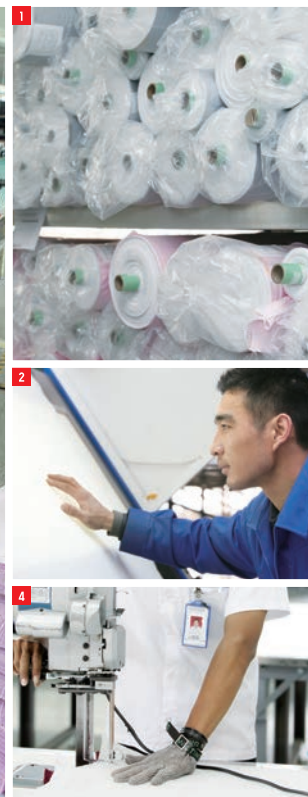
## ユニクロの服ができるまで

服づくりの最前線、縫製工場をレポート。工場との強固なパートナーシップのもと、効率的でダイナミックな生産を支える最先端の設備、人の手や目による細やかな作業、そして職人の経験値が融合することで実現するユニクロの服づくりを、主要な工程に沿って紹介します。

### 生地



繊維や染料など、すべての素材についてサンプル検査を実施。安全性が確保された素材を使用し、生地を織り、裁断します。



#### 1 素材納品

生地を織る工程では、原糸、染料、薬剤を厳選。生地工場最終検査に合格した素材を、縫製工場に出荷しています（詳細は下記インタビュー参照）。

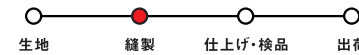
#### 2 生地の検品

生地の裏から光をあて、傷や汚れ、染め漏れがないかを確認。集中力を要する作業のため、担当者は交代制で、すべての生地を丁寧にチェックします。

#### 3.4 裁断

無駄な生地が出ないように綿密に計算し、機械で裁断します。また細かい部分を手で裁断する際は、けが防止のため、金属製の手袋を着用。

### 縫製



正確さはもちろん、スピードも求められる工程。高い品質を守るために、途中で何度も検品を行います。



#### 1 縫製のライン

それぞれが1パーツずつ担当し、リレー式に各パーツを縫い合わせていきます。勤続年数の長い従業員ほど、作業は速くて正確。安心・安全への配慮など、従業員の満足向上に努め、長く働きやすい環境を整えています（詳細はP10-13参照）。

#### 2 糸切り

縫い終わった部分からわずかに伸びた糸を、さらに短く一つひとつハサミでカットします。

#### 3 中間検品

各パーツを縫い終わるごとに検品。縫い目の正確さや、生地を引っ張っても糸が切れなかなどを確認します。

#### 4 匠

日本の繊維業界で長年の経験をもつ技術者を、「匠」としてユニクロから工場に派遣しています（詳細は下記インタビュー参照）。

## INTERVIEW



商品本部 生産部 素材チーム リーダー  
平見 巖さん(ユニクロ)

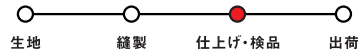
ユニクロは、安全性はもちろん、環境など社会的課題にも配慮した原料調達に努めています。たとえばウール、ダウンの調達は動物愛護に配慮しています。主素材に加えて、ボタンなどの副資材についても、素材工場と協力して、有害化学物質の不使用を推進。2020年までに有害化学物質の排出をゼロにすることにコミットしています。また生産工程だけではなく、最終商品でも有害化学物質検査を実施し、環境保全に配慮した服、お客様に安心して着ていただける服をお届けしています。



匠  
白石 高廣さん(ユニクロ)

ユニクロでは、生産現場での技術向上や工程管理、人材育成の要として、2000年より「匠制度」を導入しています。毎週工場に入り、現場で現物を見て改善指導を行います。生産数量が拡大するなかで、新規工場を開発し、生産方針や課題を共有しながら、強固なパートナーシップを築いていくことも、匠の重要な役割です。生産国を拡大していくなかで、世界各地の工場で均一の高品質を実現することが、今後の課題。それぞれの国や工場で事情が異なるため、難しい課題ですが、ひとつずつ解決していきたいと思っています。

## 仕上げ・検品



縫い終わった服にアイロンをかけるなど、仕上げの工程。  
完成した服の最終検品を行います。



### 1 アイロン

体重をかけて、細かいシワもしっかり伸ばします。

### 2 畳み

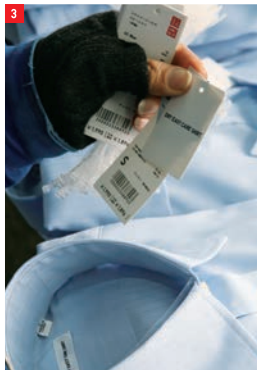
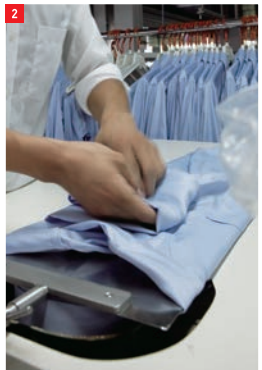
余計なシワができないように注意しながら、クリップで固定します。また襟にはプラスチックのサポーターを取りつけ、配送中の型崩れを防ぎます。

### 3 商品タグの取り付け

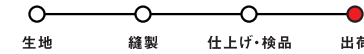
サイズや素材、生産国などが印刷された商品タグを、手作業で取り付けます。

### 4 最終検品

各工程ごとに繰り返し検品を行っていますが、出荷前に最終検品を実施しています。



## 出荷



完成した服を袋詰めした後、検針機へ。  
安全性が確認できた商品のみを出荷しています。



### 1 袋詰め

完成した商品を袋に詰める工程。形が崩れないように気を配りながら、手作業で行います。

### 2 検針機

小さな金属片にも反応する検針機に、商品の向きを変えて、複数回通します。金属反応が出たものは、他の商品と混在しないよう、鍵つきの箱に保管。

### 3 出荷

段ボールに入れて出荷。環境への配慮から、工場から販売国の倉庫への出荷時に使用した段ボール箱を、倉庫から店舗への出荷時に再利用しやすいよう、箱のサイズを統一するなどし、段ボール箱の使用量削減に努めています。



## INTERVIEW

ユニクロの服は、  
徹底した品質・安全管理体制を整えた、  
世界各地の工場生産されています。  
インドネシアも重要な生産拠点のひとつです。  
インドネシアの縫製工場に働く従業員に、  
今の仕事や将来の夢などについて聞いてみました。



### スラトリーさん(20歳)

歩いて15分の自宅から通っています。友達と一緒に働くことができ、食堂のランチもおいしいので、毎日楽しく仕事をしています。工場でお金をお金を貯金し、看護師になるのが将来の夢です。



### マルトモさん(25歳)

お昼用のお弁当を持って、バイクで通勤しています。入社して約4年。この工場ががんばってキャリアを磨き、将来は自分の会社を起きたいと思っています。



### リアンティさん(28歳)

10年以上この工場に働いていて、2年前から管理職になりました。服が好きなので、仕事も楽しいです。結婚し4歳の子供がいるため、仕事と家庭の両立を大切にしています。



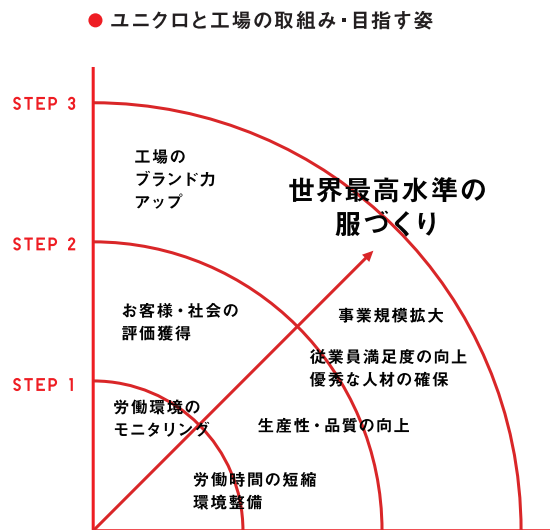
服をつくる現場の安心・安全を守るために

# ユニクロと工場が 取り組んでいること

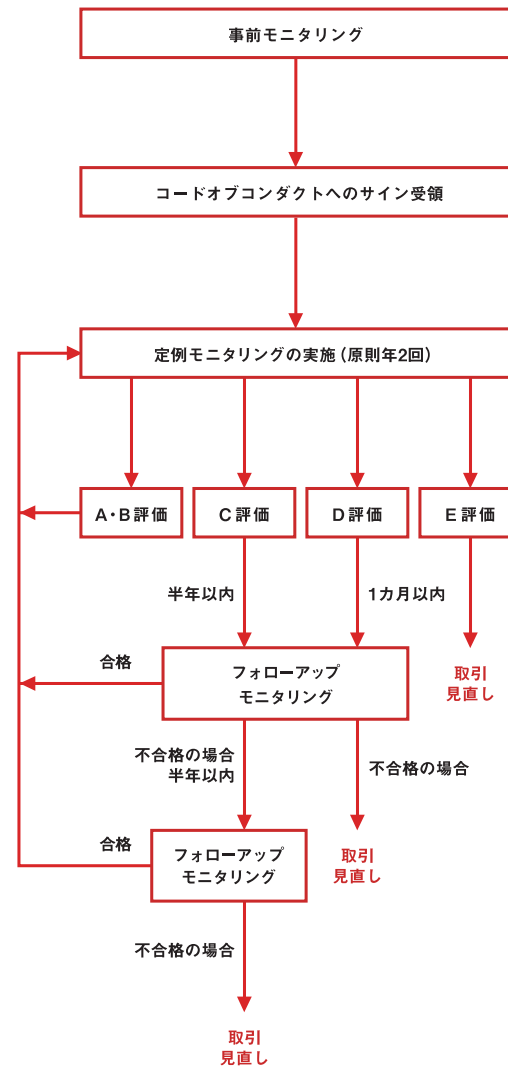
中国、ベトナム、バングラデシュ、インドネシアなど、アジアのいろいろな場所で作られているユニクロの商品。お客様に安心して着ていただく商品をつくるためには、まず、商品をつくる工場も安心で安全でなければならないと、私たちは考えています。そのためにユニクロが2004年から工場で実施しているのが「労働環境モニタリング」。より良い労働環境を目指して、ユニクロと工場と一緒に改善活動に取り組んでいます。

## 「労働環境モニタリング」とは？

「本当に良い服づくり」を実現するために、ユニクロが商品をつくる縫製工場で実施しているのが、「労働環境モニタリング」です。たとえば、生産現場で児童労働や強制労働が行われていないか、作業環境が安全に保たれているかどうかなどを外部の専門機関が確認します。そしてそれらの指摘事項に対して、ユニクロの従業員自らが現場で状況を確認し、根本原因を探ります。その後、工場と改善案を考え、必要な指導も実施し、そのプロセスの仕組み化も目指すなど、ユニクロと工場と一緒に改善活動に取り組んでいるのです。単なる項目のチェックにとどまらず、工場の労働環境を一緒に整備していくことで、生産性や品質が向上し、従業員の満足度も高まり、優秀な人材も確保できるなど、ユニクロと工場にとってより良い環境づくりが実現できます。そしてこういった取組みが、お客様や社会からの評価にもつながり、ユニクロと工場のブランド力を向上させる。これが私たちが目指す労働環境モニタリングのあり方であり、ユニクロの服づくりに必要なことなのです。



## 労働環境モニタリングの仕組み



**事前モニタリング**  
取引開始前に実施するモニタリング。その工場との取引が可能かどうかを事前に判断するもので、事前に定めた基準を満たした工場でなければ、取引できないルールになっています。

**定例モニタリング**  
縫製工場の労働環境モニタリングは、ユニクロの従業員や専門機関監査員が実際に工場を訪問して実施。現場の確認や書類のチェックをした後、モニタリングで検出された事項について、工場の責任者らと確認や改善のためのフィードバックを行います。

**モニタリングの評価**  
評価はA～Eまでの5段階。児童労働や虚偽報告などの特に深刻かつ悪質なケースはE評価として、即座に取引を見直す検討をします。CやD評価は改善指導を行い、その結果を確認するためのフォローアップモニタリングを実施して、それでも改善がみられない場合は取引を見直すなどの対応をしています。

## COLUMN

### 「コードオブコンダクト」とは？

ユニクロ事業を展開するファーストリテイリングでは、生産現場の労働環境(児童労働の禁止や残業時間の制限など)について、国際労働機関(ILO)の条約・勧告などを参考にした「生産パートナー向けのコードオブコンダクト(CoC、行動規範)」を定め、パートナー工場と誓約書を交わしています。  
詳細は、株式会社ファーストリテイリングのCSRサイト参照

### 【「生産パートナー向けコードオブコンダクト(CoC)」の項目】

- ・児童労働の禁止
- ・強制労働の禁止
- ・抑圧およびハラスメントの禁止
- ・差別の禁止
- ・健康と安全性について
- ・組合結成の自由について
- ・賃金と諸手当について
- ・労働時間について
- ・環境保護について
- ・社内規定の作成について
- ・モニタリングおよびCoCの遵守確認について

## 「労働環境モニタリング」で行っていること どんなところをチェックする？

ユニクロの商品をつくらっている縫製工場で実施する「労働環境モニタリング」では、  
どんなことをチェックするのでしょうか？  
オープニングミーティングから始まって、工場内はもちろん、  
従業員の寮や食堂などまで現場をチェックします。  
そして従業員へのインタビューやさまざまな書類の照合など、  
細かく見て、工場の労働環境を確認しています。  
危険な場所や不適切な事項があった場合は、その場で改善を指示しますが、  
ユニクロの従業員は指示するだけでなく、工場と一緒にその原因を追究し、  
それに対する改善策を考えることまでフォローしています。  
そして後日、改善策が実施されているか、問題は解決できたかどうかも再確認し、  
ユニクロの商品がいつも安心・安全な環境でつくられるよう努力しています。

## SAFETY

### 服づくりの現場の安全性をチェック



#### 資材や機器の設置

危険な段ボールの積み上げ方をしていないかや、  
機器の設置状況など、工場内を実際に歩いて確認。

#### 緊急時に備えて

消火器や救急箱など緊急時に必要な物が定位置  
にあり、すぐに使える状態かどうかを確認。

#### 避難経路の確保

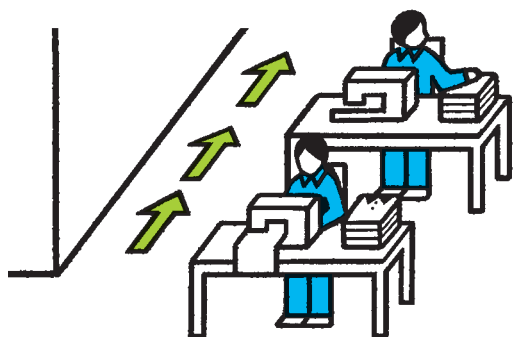
非常口が荷物でふさがっていないことや、避難経  
路の方向が床に描かれていることも重要。

#### 作業に応じた防護策

化学薬品を使用する場合、マスク・手袋・ゴーグル  
など、作業に応じた防護策をとることが必要。

#### 化学薬品の取り扱い

容器にラベルが貼ってあるか、飲み物と混同する  
ような容器に移し替えていないかなど、化学薬品  
の正しく安全な取り扱いを確認。



## LIFE & HEALTH

### 従業員の安心・安全な生活のために



#### 食堂のキッチン

従業員が毎日利用する食堂内のキッチンの衛生状  
況を確認。キッチンで働く従業員の健康証明書が  
工場で保管されているかもチェック。

#### 生活する場、寮の安全

寮における飲み水、シャワー、トイレなど、水まわり  
の衛生状態のチェックや、非常口ルートの確認。

#### 仕事に応じた健康診断

職業病も考慮しながら、仕事内容に合わせた健康  
診断を受けているかどうかを確認。

## CHECK & INTERVIEW

### さまざまな書類の照合とインタビュー



#### 労働時間と給与明細の照合

労働時間、給与、控除内容などの書類を照合して、  
長時間労働や賃金の未払いがないかを確認。事実  
確認のため、プライバシーに配慮しながら、従業員  
本人へのインタビューも実施。

#### 労働契約内容の確認

労働契約に不当内容が含まれていないか、児童  
労働などがないかどうかをチェックするため、ID  
カードのコピーなどを確認。

ユニクロの取組みについて  
ご意見をいただきました

## 世界の友人の 幸福を感じるユニクロへ

文・藤井 敏彦

良い服にはいろいろな顔があります。たとえば着心地、美しい色合い、手頃な値段など。もちろんどのような服を良いと思うかは、人それぞれです。ただ、ひとつ注目したい世界的傾向があります。赤丸急上昇の新しい「良さの尺度」があるのです。「つくり手との幸福なつながり」です。

服は多くの人の手を経てつくり出されます。いくつかの国をまたがることも珍しくありません。着る人だけでなく、つくり出す人も幸せにする服。つまりできあがった製品だけでなく、できあがる過程もまた大切だという考え方です。

「できあがる過程」というと、ちょっと前まではおもに環境のことでした。工場が環境破壊をしてはいけない、というのはわかりやすいですね。ただ、働く人の幸福ということにはあまり目が向けられなかったのです。

グローバルなアパレルメーカーはどこも、この新しい「良さ」を追求しています。辛い思いをしている人がつくった服が着た人を幸せにする、というのはやはりどこかおかしいですから。世界中の顧客がそのことを問い始めたのです。これを「サプライチェーンのCSR(企業の社会的責任)」と呼ぶことにしま

しょう。製品のサプライチェーンを通じて、環境のみならず働く人の労働条件や職場環境がきちんとしたものになることに、アパレルメーカーが社会的な責任を負うという考え方です。

この冊子でも紹介されているとおり、ユニクロは日本企業のなかでも熱心にサプライチェーンのCSRに取り組んでいます。もちろん、まだなすべきことはたくさんあります。この問題は非常に難しいからです。服はたくさんの工程を経ることもあり、多くの企業が参加します。ですから職場環境と一口にいても実に多種多様なのです。そこで働くひとが誰もが幸せに働いているようにするにはたいへんな努力がいります。ユニクロの服づくりが世界に広がるということは、ますます努力がいることを意味します。

でも、それはまさに「服のチカラ」です。世界のさまざまな場所に新しい働く機会、笑顔で働ける機会をつくる、これもまた「服のチカラ」なのです。袖を通すときにぜひ感じてほしいのは世界の友人の笑顔です。つくり手との幸福なつながりを感じられる服づくり、ユニクロに引き続き追求してほしいことです。

藤井 敏彦

埼玉大学大学院 経済科学研究科 客員教授

1987年東京大学経済学部卒業、通商産業省(現経済産業省)入省、1994年ワシントン大学にてMBA取得、2000年在欧日系ビジネス協議会(於ブラッセル)事務局長、2004年経済産業省に復帰し通商を担当、2010年より埼玉大学大学院経済科学研究科客員教授。日本の対EUロビイストの草分けであると同時にCSR研究者としても活躍。

グローバルな視点からCSRに関する著作を多数発表している。

主な著書は、「ヨーロッパのCSRと日本のCSR—何が違い、何を学ぶのか」(日科技連出版、2005年)、「グローバルCSR調達—サプライチェーンマネジメントと企業の社会的責任」(日科技連出版、2006年)、「競争戦略としてのグローバルルール」(東洋経済新報社、2012年)など。

## FROM FAST RETAILING

### 本当に良い服を一緒につくるための 取引先工場との取組み

ファーストリテイリングは、企業理念のミッションのひとつに「本当に良い服、今までにない新しい価値を持つ服を創造し、世界中のあらゆる人々に、良い服を着る喜び、幸せ、満足を提供します」と掲げています。

「本当に良い服」とは、商品の品質はもちろん、社会で認められる正しい環境でつくられた服であることが求められます。そして「本当に良い服」をお届けするために、お客様をはじめとするさまざまな方々の意見を取り入れることも重要です。

今号では、ユニクロが考える「本当に良い服」についてをご紹介します。ユニクロが多くの取引先工場とともに取組み、活動していることをお伝えしました。

このような活動の結果、現在、長年の取引で強固なパートナーシップのある工場では、さまざまな改善活動がなされ、労働環境モニタリングの指摘事項もかなり減ってきています。その反面、新規の取引先などは、単純な知識や経験の不足なども多く、改善が必要な工場が多いのも実情です。

これらの課題に対して私たちは、特に新規の取引先工場とさらにきめ細かいコミュニケーションをとり、お互いの情報を共有し、課題に対してよりいっそう一緒に取り組むことが必要だと考えています。そのため、事前モニタリングを実施して早めに問題点を洗い出したり、アジア各地にある生産事務所に工場の経営者や該当部門責任者を招いて研修会を開催したり、ファーストリテイリングの従業員が直接現地を訪問して説明するなどの活動も実施しています。さらに、より良い解決策を導き出すために、取引先工場の方々の意見も取り入れ、真摯に検討し、より良い取組みとなるよう日々努力しています。

ファーストリテイリングの姿勢に共感していただける工場とともに強固な信頼関係を築き、単なる「取引」ではなく「取組み」として事業を行うことで、正しい環境での「本当に良い服づくり」を実現し、世界を良い方向に変えていきたいと考えています。



「服のチカラ」に関するご感想やアンケートのご協力、ファーストリテイリングへのご意見、お問い合わせなどは、本冊子添付のハガキもしくは、下記ホームページまでお願いいたします。

<http://www.fastretailing.com/jp/csr/>  
<http://www.uniqlo.com/jp/csr/>



# ■ ■ Clothes for Smiles

たくさんのアイデアをお寄せいただき、ありがとうございました。  
世界46カ国から集まったアイデア総数は739件。  
そのなかから厳正な審査を経て選ばれた8つのアイデアを紹介します。



世界の子どもたちが壁を相手にスポーツを楽しめる  
「UNIQLO DREAM WALL」の設立。

企画者: Yosuke Kawadaさん



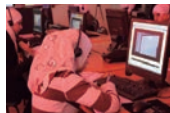
教育の機会に恵まれない子どもたちに、スポーツ、  
芸術、技術等の分野のプロフェッショナルが職業体験授業を実施。

企画者: pntswrksさん



セルビア難民センターの子どもたちに、  
お気に入りの服を買う社会体験をプレゼント。

企画者: Mahito Takahashiさん



優秀講師によるDVD授業で、  
途上国の教育格差を是正する。

企画者: eedu\_jpさん



アジアの子どもたちの識字率を高めるため、  
図書館を設立。

企画者: sva\_1981さん



命を脅かす病気とともに暮らす子どもと  
その家族が穏やかな時間を過ごすためのホスピスの設立。

企画者: Hideki Takabaさん



フィリピンの貧困層の子どもたちが自立するための  
職業訓練・インキュベーション施設の設立。

企画者: Takako Yamadaさん



女子サッカーチーム設立を通じ、  
発展途上国の女兒の自立を支援。

企画者: Ayako Hayashiさん

©ブラン・ジャパン

各アイデアの詳細や進捗は公式サイトをご覧ください。

<http://clothesforsmiles.uniqlo.com>